

平成25年度研究科横断型教育プログラム（Aタイプ）授業科目

開講方式	Aタイプ (研究科 開講型)	研究科名	医学研究科 (人間健康科学 系専攻)	カテゴリー	環境・生命・医療科 目群	横断 区分	文理横断型		
授業科目名	次世代医療を語る	講義担当者 所属・氏名	<ul style="list-style-type: none"> ・医学研究科人間健康科学系専攻: 高桑徹也、椎名 毅、杉本直三、 細田公則、山田重人、青山朋樹、 酒井晃二、山田 実 ・医学部附属病院: 前川 平、門脇則光、森本尚樹、 藤林俊介、伊藤達也 ・IPS細胞研究所 青井貴之 ・細胞-物質統合拠点: 仙石慎太郎 ・再生医学研究所: 岩田博夫、山本雅哉 ・学際融合教育研究推センター: 宮野公樹 	開講 場所	病院地区 (人間健康科学 系専攻) 171号室(予定)				
配当 学年	修士 博士後期 専門職	単位 数	2単位	開講 期	後期	曜 時 限	水5限 (16:30-18:00)	授業 形態	講義
〔授業の概要・目的〕									
<p>医療は、さまざまな分野からのアプローチにより絶えず動的に変化し続けています。その動向を機敏にとらえて行くことは「よき医療人」を育成する本専攻の重大な使命です。このシリーズでは、理工学、細胞生物学、地域・社会学といった分野からの次世代の医療に対する取り組みを、その分野の専門家に紹介していただき、医療の動向を議論したいと思います。</p> <p>【研究科横断型教育の概要・目的】 次世代の医療は、医学研究科だけでなく、さまざまな分野の学生が担って行く可能性がある。今回は、その代表として理工学、細胞生物学、地域・社会学からのアプローチを取り上げる。本プログラムを聴講した様々な分野の学生が、次世代の医療に繋がるヒントを得て、思いもかけない連携が生まれるかもしれない。それは、この上なく喜ばしいことである。</p>									
〔授業計画と内容〕									
<p>理工学、細胞生物学、地域・社会学の3領域からの医療への取り組みを専門家に紹介していただき、討論をします。講義の順番は講師の都合によりこの通りではありません。後日、改めて連絡致します。</p> <p><次世代の生体情報取得機器開発> 10/2. 杉本 直三 (人間健康科学系専攻:教授) 画像処理・解析による診断と治療の支援 10/9. 酒井 晃二 (人間健康科学系専攻:講師) 画像解析と診断との融合: MRI の例を中心に 10/16. 椎名 毅 (人間健康科学系専攻:教授) 次世代の検査機器開発: 超音波と光による生体機能・性状のイメージング</p> <p><次世代の生体医療材料> 10/23. 岩田 博夫(再生医学研究所:教授) 人工材料への細胞の接着 10/30. 山本 雅哉(再生医学研究所:准教授) 新しい Drug delivery system の開発 11/6. 藤林 俊介(医学部附属病院 整形外科:講師) 生体活性チタンを用いた新しい骨関節疾患治療</p> <p><次世代の細胞治療> 11/13. 前川 平(医学部附属病院 輸血細胞治療部:教授)</p>									

京都大学における細胞治療・再生治療開発への挑戦
11/20. 仙石 慎太郎(細胞-物質統合拠点:准教授)
幹細胞の品質評価・安定培養技術とイノベーション
12/4. 門脇 則光(医学部附属病院 血液・腫瘍内科:准教授)
癌免疫療法としての細胞療法
12/11. 細田 公則(人間健康科学系専攻:教授)
糖尿病、肥満症、メタボリックシンドロームの次世代医療

<医療のグローバル化>

12/18. 山田重人(人間健康科学系専攻:教授)
次世代の出生前診断
12/25. 伊藤 達也(医学部附属病院 探索医療センター:助教)
治験、臨床試験を実施する際の行政との関わり
1/8. 山田 実(人間健康科学系専攻:助教)
転倒予防を通じた新たな地域との関わり
1/22. 宮野 公樹(学際融合教育研究推進センター:准教授)
新しい医療のための異分野融合ダイナミクス
1/29. 総括

〔履修要件〕

特に定めない

〔成績評価の方法・基準〕

出席 50%, レポート 50%

〔教科書〕

特に定めない

〔参考書等〕

特に定めない

〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕

問い合わせ先: 高桑徹也; tez@hs.med.kyoto-u.ac.jp